V259a　京大岡山 3.8m 望遠鏡：進捗と予定

長田哲也 (京都大学), 京大岡山 3.8m 望遠鏡計画グループ

京大岡山 3.8m 望遠鏡は、2017 年 3 月に竣工した本設ドームへと移設作業を行なっている。この望遠鏡のおおむね半分の時間は、全国大学共同利用のために使用する予定になっており、2018 年 8 月には、国立天文台による全国大学共同利用を開始することを目標としている。

これまで、岡山ユーザーズ・ミーティングなどの機会を利用して、3.8m 望遠鏡用に提案された観測装置の情報を集め、ナスミス焦点のインスツルメント・ローテータ、装置インターフェイス、分光器室などの設計開発を進めている。京大で開発中の観測装置としては、ファイバー型可視光面分光装置 KOOLS-IFU、高速測光分光装置、近赤外相対測光分光器、高コントラスト惑星探査装置 SEICA (Second-generation Exoplanet Imager with Coronagraphic Ao) がある。これらはそれぞれ目的を研ぎ澄ました観測装置という性格を持っており、想定する研究対象はガンマ線バースト・重力波対応天体・スーパーフレア・ブラックホール連星などの突発天体現象、そして太陽系外惑星の撮像観測である。焦点部にはまだ観測装置を搭載する余地があり、特に汎用の装置を歓迎する。

講演では、これらの進捗を報告する。